

2019年度事業報告書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

特定非営利活動法人アフリカ日本協議会

1 2019年度事業について(主な活動と成果)

2018年度の活動を引き継ぎ、本法人として定款で定めた目的を達成するため、広範な市民との協力関係のもと、以下の事業を実施した。

- 1) アフリカ支援事業: アフリカにルーツを持つ子どもを対象としたアフリカンキッズクラブ(AKC)、在日アフリカ人と連携・協力しての活動などを実施した。AKCでは、アフロビーツダンスクラス&発表(全10回)、アフリカ布の切り絵アート講座などのイベント(全3回)を開催。アフリカンキッズ東海の活動を開始し3回のイベントを実施した。ユースが主体的に運営する活動として、アフリカンユースミーアップ(全4回)を開催し、SNSやオンラインメディアなどでの発信も積極的に行った。在日アフリカ人との連携では、「在住アフリカ人と共に生きる勉強会・交流会」(全3回)を開催した。また、なんみんフォーラムに加盟し、他団体と協力して難民・難民申請者への支援を実施した。
- 2) ネットワーク形成事業: 第7回アフリカ開発会議(8月)への政策提言と市民社会の参加に向けた国内外の市民団体の参加調整を市民ネットワークforTICADの事務局として行った。国内40団体、国外より期間中だけで30団体以上が参加した。GII/IDI懇談会(人口・感染症対策など地球規模課題に関する外務省/NGO定期懇談会)における外務省との対話では、NGO側の代表を務めた。在京アフリカ外交団(ADC)が主催した「今のアフリカ」、よこはま国際フォーラムへの参加、TICAD関連イベントの主催を通して来場者との交流や情報交換を行い、共に考える場を提供した。
- 3) アフリカ調査・研究事業: アフリカにおける食料安全保障に関する啓発等のため「世界食料デー」のイベントを他NGOおよびFAOと開催したほか、FAOの資料を読む学習会をほぼ毎月開催し、翻訳した資料をウェブサイトで紹介した。アフリカ熱帯林地域での長年に渡る森林環境および野生生物、先住民族についての調査研究に基づき、セミナーや上映会等による教育普及活動を全国で24回、AJF主催・共催・後援事業として実施した。それにより、生物多様性やアフリカを含む地球環境の問題、それに関わる先住民族の社会問題などについてオンタイムの情報を幅広く提供し喚起した。また、2017年に始めた野生のヨウムの保全を目指したクラウドファンディングを継続し、合わせて249件、1,838,945円の支援を得て、絶滅に瀕したヨウムの密猟対策や野生復帰など保全に貢献した。
- 4) 政策提言事業: 大阪G20サミットに向けCivil20国際保健ワーキンググループの調整役として、70カ国以上より参加した市民団体とともに政策提言文書を作成して政府に提出したほか、関連イベントの開催、メディアワーク等を行った。UHC(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)、グローバルファンドに関する政策提言は、国内外の市民団体とともに国際会議への参加、提言書の提出等を通して行った。
- 5) アフリカ理解促進事業: 昨年度にリニューアルしたAJFのウェブサイトを逐次更新し、具体的な活動内容を広範に知らせると同時に、国際保健、食料安全保障、アフリカ熱帯林の課題に関わる情報発信等、理解促進のためのコンテンツを提供した。会報『アフリカNOW』は2回発行し、メールマガジン「AFRICA ON LINE」は、アフリカ関連のイベント情報等を定期的(隔週)に発信した。AJF設立25周年記念イベント(2020年2月)は、シンポジウムと交流会を行い、約100人が参加し、これまでのAJFの活動と直面してきた課題を振り返り、これからの活動を議論する機会となった。

2 事業の実施に関する事項

別紙参照

3 会の運営に関する事項

事務局家賃、事務局員人件費、事務消耗品費、通信費などに616万円を支出した。

* 詳しくは会計報告を参照